

平成 31 年 2 月 20 日

松田町長 本山博幸様

松田町総合計画審議会
会長 古館信生

(仮称) 松田町第 6 次総合計画について (答申)

平成 30 年 8 月 10 日付け松第 458 号で諮問のありました標記のことについては、当審議会において慎重に審議を重ねた結果、その内容は妥当なもの認めます。

今後は、まちの将来像や長期的に目指すキーワードを実現するために、戦略的に取り組むべき課題である三つのまちづくりテーマ、更に 6 つの施策大綱を効果的かつ着実に推進されるよう、次の 3 点を強く希望する。

なお、本計画をまちづくりの羅針盤として運用するにあたっては、PDCA サイクルを着実に遂行することが必要である。

松田町自治基本条例の理念に基づき、施策・事業を評価し、健全財政に基づく行政経営と協働のまちづくりを、SDGs の理念も踏まえてオール松田で推進していくこと。

記

1 協働・連携協力

人口減少や少子高齢化といった喫緊の課題に立ち向かっていくためには、町民主役のまちづくりを推進するルールである松田町自治基本条例に規定する「情報共有」「参加」「協働・連携協力」の 3 原則に基づき、まちづくりを推進していくことが求められる。

本計画の策定にあたっては、町民ニーズの高かった「駅周辺の整備」や「買い物の利便性を高める」をはじめとするご意見に真摯に向き合い、実効性のある取組みを推進すること。

また、町に賑わいを取り戻すためには、主体的なまちづくりへの「参加」が必須であることから、新たな「協働・連携協力」を模索・

推進し、地域を巻き込むような仕組み作りに取り組みたい。

2 魅力づくり

消滅可能性を指摘される本町にあっては、各種課題の解決は勿論のこと、既存の地域資源や強みを活用し、未来指向で賑わいを創生する持続可能な取り組みを加速していくことが必要である。

先人から受け継いだ豊かな自然や、交通の要衝としての立地・環境等は、次代に引き継がねばならない貴重な財産であり、町を創生する重要な要素でもあるため、この強みを更に強靱化する施策の実現は待った無しの状況である。

急激に社会・経済環境の変化を繰り返す時代であっても、その要請に適合した新たな施策・事業に対して、臆することなく積極的に取り組まれない。

3 人づくり

松田町を形成する「人」を育むことは、故郷まつだを未来へツナグことであり、郷土愛や町民の誇りを醸成し、豊かな人財を育成する取り組みは、町の礎を築くのと同義である。

特に、今後、人口減少や少子高齢化といった課題に立ち向かっていくためには、次代を担う子どもたちへの投資は勿論、女性や高齢者の活躍推進、更には交流・関係人口の増加を移住促進につなげていくこと。